

各委員 の共通意見

- 市民に手に取って読んでもらえるような「シンプルでわかりやすい」計画としてほしい。
- 奄美市が解決すべき重要な課題は人口減少、労働力不足、少子化対策の3つである。
- 「時代が変わっても残していくもの」と「時代に合わせて変えていくもの」があるのではないかと。

―― 論点整理や各位委員からの事前意見を踏まえ、新たな最上位計画の方向性を以下のとおりまとめる ――

計画の 位置づけ

新たな最上位計画は単に行政の事業・施策展開をまとめたものではなく、市民、企業、行政など「奄美市民」が一体となり、将来にわたっての目指すべき姿やこれからの方向性を示すものとする。

論点① 「目指す将来像の明確化」

【方向性】

- ☑ 「人口減少社会」を前提にした持続可能なまちの在り方を検討する。
- ☑ 奄美市『攻め』の総合戦略2020(まち・ひと・しごと創生総合戦略)で定めた「しあわせの島」を基に将来像を検討する。

【骨子案に向けた取組】

- ☑ 島内の高校生や本土在住の若者へのアンケートを実施。

論点② 「市民が実感できる成果指標の設定」

【方向性】

- ☑ 単に「総人口」などにとどまらず、市民の生活実感の反映や事業のPDCAに直結するわかりやすい指標の検討を行う。

【骨子案に向けた取組】

- ☑ 幸福度調査アンケートの見直し。
- ☑ 策定委員会で議論を深めていく。

論点③ 「計画期間の再検討」

【方向性】

- ☑ 論点①で整理する将来像は20年後と設定して高校生にアンケートする。指標と合わせて事務局で骨子案をまとめる。

【骨子案に向けた取組】

- ☑ 市民の意見を踏まえ事務局が案をまとめる。

論点④ 「最上位計画と個別計画の関係整理」

【方向性】

- ☑ 細かい事業などについては個別計画に委任するなど「よりシンプルで、わかりやすい」計画策定を目指し、基本構想(10年)と基本計画(前・後期)の一本化を図る。さらに新たな最上位計画では細かい事業は記載しないこととする。

【骨子案に向けた取組】

- ☑ 策定委員会で議論を深めていく。

論点⑤ 「名は体を表す」上記論点を踏まえた計画名称の検討

【方向性】

- ☑ 自治体における最上位計画の在り方も多様化する中、計画名称についても検討する。

【骨子案に向けた取組】

- ☑ 計画の名称については審議会では骨子案を提示する際に事務局案を示す(パブリックコメント時に市民からの意見も募集する)